

させぼ夢大学

発行 ● させぼ夢大学広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.188 <2010・11>

平成22年度
第7回

2010年 11月18日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

最近ではテレビの水戸黄門でお会いできずに、寂しい思いをしていましたが、今回は由美かおるさんに直にお目にかかれ、その上、お話も聴けるのですから楽しみ倍増です。

さて、由美さんは12歳の時に西野バレエ団に入団し、中学3年の時、早くもテレビ「11PM」に大抜擢され、師である西野皓三氏の企画・構成・振付の歌と踊りでデビュー、新鮮さとキュートな魅力でたちまち反響を巻き起こしました。その年に日活「夜のバラを消せ」で石原裕次郎さんの相手役として銀幕デビュー。その後、数々の映画でヒロインを演じられ、昭和61



年からはご存じのとおり、テレビ「水戸黄門」でお色気たっぷりな女忍者役でレギュラー出演し、お茶の間の人気者になりました。

これまで、厚生省「医療審議会」委員、大阪国際女子大学講師などを歴任され、現在は、大学、企業、公共団体などで講演活動をなさるなど多方面に活躍されています。

由美さん健康の秘訣は、身体の内から生命エネルギーを湧出させ、全身の細胞まで生き生きと蘇らせる「西野流呼吸法」の実践です。

今回は“生涯青春”で楽しく過ごすための、心と身体の健康法についてお話されます。ご期待ください。

ゆ み
女優 ● 由美 かおる氏

テーマ ● 心とからだの健康 ～西野流呼吸法～



次回のご案内

- と き / 12月16日(木)
- 講 師 / 元 関脇寺尾 鋤山 矩幸氏しころやま つねゆき
- テーマ / 私の相撲人生

●昭和38年東京都生まれ。父はもろ差し名人として鳴らした元関脇鶴ヶ嶺、母は横綱2代西ノ海の孫娘、長兄は元十両鶴嶺山、次兄は元関脇逆鋒という力士の家系に生まれる。昭和54年、高校2年生の時、最愛の母が癌で他界した事を契機に、兄達を追うように井筒部屋に入門、初土俵。入門後は母の旧姓(寺尾節子)から寺尾節男を名乗った。小柄な身体で幕内通算93場所を務め、殊勲賞3回、敢闘賞3回、技能賞1回を受賞。平成16年鋤山部屋を設立し、親方として後進の指導を精力的に行っている。

由美 かおる 氏のプロフィール

●京都生まれ。12歳の時に西野バレエ団に入団。テレビ「11PM」にプリマとして出演し、大きな反響を呼んだ。その後、映画で数々の作品のヒロインを演じた。テレビの人気時代劇「水戸黄門」に25年間レギュラー出演した。全国の企業、公共団体や医学会で西野流呼吸法の講演を実施。ゴールデン・アロー賞の新人賞、グラフ賞4回など内外で数多く受賞。京都市特別観光大使などを務める。合気道は4段の腕前である。





由紀さおり氏

由紀さんへの「手紙」

佐世保市横尾町 鷺崎 涼子

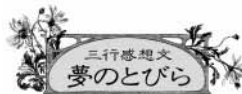
講演の中でもおっしゃっていましたが、最近、ドリフターズと共演されたコントが再放送になっていて、私も拝見し、当時の由紀さんの年齢をおそらく大幅に（？）越えてしまった私は「本当にきれいな人だな」と改めて感じていたところでした。数年前に、着物姿でドラマにも出演されていました。何とも格好良く、素敵でした。

できれば、コンサートという形で歌をたっぷり聴かせてもらいたいです。

鼻濁音のお話をされましたが、その話が出るよりも前に、何の言葉だったか、由紀さんがおっしゃっている」と気づいたので、その話

い、と思っていたのですが、気軽に口ずさむ感じで数曲歌っていた。逆、そのアカペラに「うわーさすがだな」と感激し聴きほれてしまいました。「夜明けのスキヤット」は、当時、こういう歌があるのか、と子供ながらに衝撃でしたが、由紀さんの歌は、他の誰とも違う独特の世界を持っていますね。「ルームライト」は特に好きです。

素晴らしい歌声、お話、ありがとうございました。もう一度は、是非、歌で… お待ちしています。



■子供の頃の私達は、ラジオで童謡しか聴けなかった時代でした。最近は童謡歌手はいないんじゃないかと思えます。子供の歌手はいても演歌を歌っている時代です。これから先は唱歌は忘れられる。これからでも遅くはないと思えます。童謡を伝承できる態勢を！
佐世保市神島町●田淵 誠子

■歌手として大成された今、「社会にご恩返しのため活動している」と言い、「先人が残した素晴らしい旋律を大事にし、歌を通して日本語の持つ素晴らしさを伝えてゆきたい」などとおっしゃる氏に脱帽！
佐世保市京坪町●太郎浦 幸子

■夢のつづきふるさと紀行「九十九島の民話」はいつも楽しみにしています。今回は私が住んでいる日野の民話でした。日野村の人々の生活と自然のやさしいお付き合いに心温まりました。夢大学のいろいろな企画とても素晴らしいと思えます。まもなくクリスマスツリーですね。今年はどうなツリーかな？
佐世保市日野町●中嶋 節子

■テレビからは知る事の出来ない由紀さんの人柄を知りました。世の中、残酷な親・子の事件が多く起こり、なぜこんな世相になったのだろうと考えています。祖父母・子・孫との繋がり、薄さが見えます。子育ては合理化の追求がなされ良い点もあろうが、手抜き部分の反省と改善をしなければと思ったりします。紙おむつに始まり紙おむつに終わる人生に、愛の手の気配、季節の移ろい、気持ちのゆとり、思いやりを織り込まねばと思えます。「朧月夜」「夏は来ぬ」「故郷」など、子や孫は「知らん」と首を横に振ってもカラオケで私は歌い続けます。由紀さんのご活躍を祈念します。
佐世保市早苗町●田坂 弘子

■夢のひろばのクルムの演奏、とても素敵でした。由紀さおり氏の講演、生の歌も心にしました。少女時代によく童謡を歌っていた頃を思い出し、故郷の景色を思いながら、亡き父母の事も懐かしいなあ……と涙目になり家路につきました。又、明日から頑張ろう……と思い、足取り軽く。
佐世保市上町●松尾 雅子

■今日はお話の途中途中で懐かしい童謡を歌っていただき心が和みました。由紀さんとは同じ時代を過ごした戦後生まれで、ラジオで育ちました。私の子育ては忙しかったですが孫にはゆっくりゆっくり、ばーばの歌をきかせながら(?)いきたいと思います……
佐世保市木風町●西 照美

■歌声もきれいでしたが、話される声もきれいでした。しみじみと言葉の持つ力を感じさせて下さいました。
佐世保市春日町●有吉 成子

■由紀さおりさんはやはり素晴らしい声でした。鼻濁音を語って下さったのは本当に美しく、日本語を大事にしながら歌に臨んでおられる事がうれしかったです。日本の危機を感じて必死に語られる姿から、見えない物を感じる深い心は、つらい時を乗り越えて来られた背景があることを知りました。歌の心を教えて下さりありがとうございます。
佐世保市桜木町●原 尚子

■最後に、由紀さんの指導で大合唱した「ふるさと」は童心に返り、老いも若きも元気を得、日本の唱歌の素晴らしさを噛み締めた。
佐世保市松川町●杉山源次郎

美しい日本語の歌の拡がりを

西海市西彼町 瀬戸崎 齊

「童謡」ふるさとの大合唱！講演終了！講師退場！止まらぬ拍手！退場中の講師、振り返り笑顔で手を振る。なおも続く拍手。余韻を残し、満足感に満ちた一つの流れではなかったろうか。

近藤理事長さんは、挨拶の中で「せば夢大学」だけが盛況のようだとおっしゃられたが、希望者が多いのは、来る度に「来てよかった」「次回も来よう」という想いをして

いる人ばかりだからだと思う。毎回のように、短時間ながら夢の広場があり、会場をなごませる「生花」があり、会員の意を汲んだ著名人の「講師」ありと、あらゆる面で濃やかな配慮をなさり、会員の参加意欲を引き出したところが、企画と運営があるからだと思う。

改めて理事長さんはじめ事務局の皆様さん、お手伝いをなさってくださる方々に、感謝しお礼を申し上げたい。有り難うございます。さて、講師をなさった由紀さおり氏の素晴らしい歌唱力（さすがレコード大賞最優秀歌唱賞と思わせる）に驚き、美しい日本語の童謡を次世代に伝え、普及に努めておられる活動に敬服し、ただならぬ秀でた歌手であると思った。

夢のひろば

◆日時／11月18日(木) 午後6時00分～20分
 ◆演目／女性合唱
 ◆出演／花の森コーラス
 代表 牛島ひとみ 他 40名
 指揮 坂井 洋子
 伴奏 白石あかね

◆出演団体紹介

坂井先生のご指導を受けたいとの思いで、平成14年に発足した私達も、平均年齢(70+)歳になりました。「和」を大事にされる先生の、ユーモアあふれる熱心なご指導に、歌う幸せと学ぶ楽しさを感じながら、練習に励んでいます。

今回は、6月にアルカスで開催された「おかあさんコーラス九州大会」で歌いました「九十九島」「天然の美」をはじめ、皆様よくご存知の曲を集めました。どうぞ口ずさみながらお聴き下さい。夢のひろばへの出演は、うれしい二度目です。

また、歌う事の好きな方の入団をお待ちしております。

◆曲目

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1. 九十九島 | 作詞/伊能 忠敬
作曲/池田 松洋 |
| 2. 美しき天然 | 作詞/武島 羽衣
旋律/田中 穂積 |
| 3. 九十九詩人 | 作詞/阿久 悠
作曲/羽田健太郎 |
| 4. 初恋 | 作詩/石川 啄木
作曲/越谷達之助 |
| 5. ゴンドラの唄 | 作詞/吉井 勇
作曲/中山 晋平 |
| 6. 長崎の鐘 | 作詞/サトウハチロー
作曲/古関 裕而 |

ふるさとは「美しい日本語にあり」「懐かしい童謡にあり」!!

とが大事ではないかと思う。その歌をとおして、郷土愛、自然愛の心も育まれてくるのではないだろうか。こどもたちだけでなく、大人も一緒に歌って、美しい日本語の歌を歌声にし、その言葉の素晴らしさを、一つの遺産として次世代へ引き繋ぎがねばならないと思う。

言の葉にこそ寄せて

佐世保市金比良町 瀬野 優子

旅を明日に控えた日の講演。童謡歌手、安田章子の頃よりファンであった故に、いつもより少し早めに出掛け、運良く座席確保。夢のひろばの「クルム」は私好みで大変良かった。琴線に触れしヴァイオリンが落ち着かせてくれた。

講演を聴かれた感想をお待ちしています!

※締め切りは講演日の1週間後(必着)
 ※宛先は、させほ夢大学事務局まで

然し私には、字余り、リビート多く馴染めない。余韻も残らず、景が見えずに共鳴も出来ない。中には好みもあり、メロディーを口遊んだりして楽しんでる。ラジオからTVへ重心が移り、童謡を聴くことも少なくなった。寂しい限りである。ラジオに寄る聴覚で私たち年代は歌唱力を鍛え、または鍛えられたといっても過言ではない。TVの時代だからこそ、美しい日本語を駆使した童謡の貴重さが頷ける。

童謡・唱歌は心の古里

佐世保市南風崎町 横山 春美

吸い取り紙が、滲んで広がっていく様に子供の心に浸透して残ればとの強い思い、美しい日本の童謡を次世代へ、又今でなければ伝えられないとの思いのコンサート継続に敬意を表したい。いい歌が沢山あり、忘れ去られるのは誠に勿体ない。教材としてもっと使えぬものかと一考する。ビートルズや米国の歌手による歌作りに目覚めた日本の歌手も多い。自作自演が流行り、それで歌手の仲間入りが希望を抱かれた方も少なくない。

最後に、講演者ご指導で、「ふるさと」を三番迄皆で歌い、会場を震わせ一味違った心に残る記念すべき講演会であった。



由紀さおりさん

由紀さおりといえは「夜明けのスキヤット」。私が二十歳の頃に大ヒットした。クルルルルルで始まる、その透き通って、且つなまめかしい歌声には、日本中が魅せられたのではないだろうか。今回その美しい歌声を聴けることを楽しみにしていた。ステージの袖から、思っていた通りおしとやかに登場。

まずは、自分が歌の道に入った経緯や、姉の安田祥子さんとの共演のきっかけや、姉との違いなどを話された。母の中で「自分の歌探し」の話や、母の影響が大変大きかったとの話は興味深かった。その話し方は、当初のイメージと

異なり、笑いやユーモアを交えての、ざっくばらんな楽しい話し方だった。「日本の文化は、余白の文化」と言われると初めて教えられた。言葉は大切で、話す時は相手の目を見て話し、相手の気持ちを慮って話すようにとの話に共感。帰宅時の「ビール冷えてるよ」が我が家でもあればなあ。



curumu (クルム) の演奏

日本語の素晴らしさは、私も常日頃感じている。中国伝来の漢字だけではなく、カタカナ、ひらがな、ローマ字、といういろいろな文字を使って、日本人の繊細な感性や心情、そして美しい四季のある情景を表現できる日本語は、実にすばらしいと思う。美しいメロディと絶妙に調和して、美しく素晴らしい童謡や唱歌や民謡が作られてきたのではないだろうか。「故郷」や「早春賦」「赤とんぼ」などの唱歌や、各地方の「子守唄」は、ついつい口ずさみたくなる。このような歌は、日本人の心の宝物であり、大切に歌い継がなければならない。「故郷」をみんなで合唱して、その思いを深めた。

由紀さんは「きちんとした母国語としての日本語の歌を」、「文化の共生を」と力説された。今後も日本の素晴らしい童謡や唱歌などを歌って、日本国中に広め、次世代にも伝えていただきたいと、更なる活躍を期待します。

ふるさと紀行 九十九島の 民話

7

「丈ヶ島」

佐世保工業高等専門学校
澤田 彰

■竜が天にのぼろうとして
化石になった「丈ヶ島」
—昔、九十九島の村々に住む
若い娘が次々と姿を消す怪事
件が起こった—

むかしむかしそのまたむかし、小舟で恋人同士が釣りをしていたところ、空が急にくもり嵐が来しました。舟は大きく揺れ、若者は海に投げ出されてしまいました。そこを通りかかった竜が若い娘だけを助けて、空に上って行ってしまいました。

それを見ていた若者は、自分にもう少し背丈があれば、竜のようになつてとりかえすことができるのと思ひながら、海に沈んでしまいました。何年かたってその若者が沈んだあとに、竜が天に昇るよう

な形の島がぼっかり出来たという事です。いつの頃からかわかりませんが、この竜に似た岩を「丈ヶ島」と呼ぶようになったと言う事です。



来を遣わしました。

武士は近くの島にこもつて、三日から七日の祈願を込めて秘策を練りました。

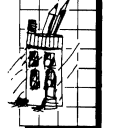
満月の夜、こうこうと照り輝く月に誘われるように、竜が姿を現して武士の面前に体を横たえました。神仏の加護と喜んだ武士は弓を思い切り引き、急所を狙ってヒューッと射しました。その時、竜はものすごい叫び声をあげて天空に舞い上がろうとしましたが、力尽きて立ち往生し、ついに、そのまま石になってしまいました。

またこんな話もあります。ずーっと昔のことですが、平和に明け暮れていた九十九島の村々に、ある日突然若い娘が次々と姿を消すという怪事件が起こりました。

色々調べた結果、この頃どこからとも無く来て、丈ヶ島に住み着いた竜の仕業とわかりました。村人は力を合わせて討伐に知恵を絞ったが、とても手に負える代物ではありませんでした。村人はとうとう領主に訴え出しました。領主は早速、鎮西八郎為朝の再来と噂の高い弓の名人である家



事務的ミソリ



●熱い想いの由紀さんに
感激!

いつもテレビで拝見していた由紀さん。今回は直にお話が聞けてますますファンになった方もおられるのでは…?

由紀さんご一行は3時前にホテルにチェックイン、4時半にはアルカス入りされました。いつもより早めのアルカス入りだったのは訳があったのです。「アッ!アッ」「オッ、オー」(こんな感じの声だったかな)と実際に声を出されていま

した。マイクの音量、響き具合、ホールとステージの照明の加減、さらにはご自身の立つ位置を入念に確認

されています。歌う事を生業となさっている由紀さん、妥協を許さないプロとしての細かな詰めを間近で感じる事が出来ました。

それにも増して、「美しい日本語の歌を伝えたい」との熱い想いの由紀さんに圧倒された90分。凜となさつた由紀さんのお話に会場全体も納得の様子、何ともいえない心地良い緊張感が漂い、最後の「ふるさと」の大合唱には身震いするほどの感動を覚えました。

今回はお話が聴けたので、次回は美しい日本語の歌を夢大学のステージで聴かせて頂けたら良いのになあ!!

お出がけください!



させば夢大学では、今年もアルカスSASEBOの共催を得て、第8回「バラの折紙ツリー」を12月1日から25日までアルカス2階ロビーに展示します。「ツリー点灯式」と「ロビーコンサート」を行います。どうぞお誘い合ってお出がけください。

- 日時 12月1日(水)
午後5時~6時
- 場所 アルカス1階ロビー